



— 第21回 —

演奏は高齢者になっても続けたい

## 大好きな公民館で 花が咲く

とわだ音楽愛好会リーダー

おがさわら じょうじ  
小笠原 城司 さん

### PROFILE

「中学3年生のときエレキギターの流行によって仲間とバンドを組んだが、エレキギターの演奏は音が大きかったので先生にステージ発表させてもらえなかった」と苦笑い。

その後、郵便局勤務のかたわら十和田湖公民館を練習会場に演奏活動を行い、公民館まつりでは実行委員会委員長も務めた。

現在十和田湖公民館で演奏活動を行っている小笠原さんは、バンド活動を行うきっかけを次のように話します。

「20代の終わりが、青少年ホームで演奏活動をしている十和田ブラズ愛好会のメンバーに誘われて愛好会に入りました。当時は社交ダンスが花盛りで、ダンスのバックバンドが主な演奏活動でした」

小笠原さんが社交ダンスのバックバンド演奏を行っていた昭和の終わりから平成にかけては、コミュニケーションづくりのため、あらゆる団体が社交ダンスパーティを開催した時代でした。声の掛かったパーティは、青少年ホームダンスパーティ、農協青年部ダンスパーティ、民間会社のダンスパーティ、市役所職員組合青年婦人部ダンスパーティなどといえます。

「うちのバンドは13人ほどの編成で、楽器はベース、ドラム、ギター、トロンボーン、トランペット、アルトサクソフーン、テナーサクソフーン。演奏曲はジルバやマンボ、タンゴ、ルンバ。1ステージ10曲で、それを2ステージ行っていました。ひと晩に20曲演奏するのは若い時代でないとなかなかできません」と話す小笠原さん。

メンバーはそのまま年を重ね50、60代になるといいます。まさに「おやじバンド」。小笠原さんは奥瀬字

小沢口の出身。十和田市と合併後、十和田湖公民館職員の勧めもあり、公民館活性化のため十和田湖公民館に練習会場を移し、バンド名を「とわだ音楽愛好会」と改称してリーダーとなりました。また、公民館まつりは利用団体が実行委員会を結成して行う「市民参加型のまつり」となったため、まつりの実行委員長も務めた経験があります。

「中心となって音響、司会、進行などを行っていたのが、沢田地区の新舞踊の『沢田舞悠会（新屋敷京子代表）』の皆さんです。もちろん、皆さんはステージで新舞踊やモダンダンス、カラオケなどをたくさん発表しながらの進行です。彼らの力は大きかったですね。ステージ進行のプロでした。現在は、ステージ部門が法興小学校へ移ったため、ここ数年公民館側で行っていますが、『沢田舞悠会』の皆さんには本当に感謝しています」と小笠原さん。

小笠原さんの担当楽器はベースギター。十和田湖公民館まつりでは毎年最後のトリを演奏します。演目は演歌、ジャズ、ポップスなど。最後の曲ではステージにモダンダンスや舞踊の皆さんが大勢登場し、踊りながらフィナーレを飾るといいます。「高齢になっても好きな公民館で演奏活動をしたいですね」と小笠原さんは話します。